

リハビリテーション学科における受験生数の推移に関する調査

福谷 保¹⁾

要 旨：福井医療技術専門学校の受験生数の推移を昭和61年から平成14年まで調査した。その結果、受験生数は理学療法学科と作業療法学科においては平成9年ごろまで緩やかな増加を示したが、その後減少傾向に転じていた。言語聴覚学科では平成12年ごろまでは増加していたが、その後は減少していた。これらの背景には18歳人口の減少と養成校の急増の影響があると考えられた。平成18年に短大へ移行するに当たって、県内受験生だけでなく県外者への広報活動や大卒者、社会人経験者の受験生を増やす努力が必要だと思われた。

(新医福誌, 2005; 2:35-38,)

【Key words】リハビリテーション学科, 受験生, 調査

はじめに

近年、高等学校卒業生（いわゆる、18歳人口）の減少がニュースなどでもしばしば取り上げられている。それに伴い、一部の大学では学生の確保が非常に困難な状況となり、定員割れをしているところさえある。そのような状況下で福井医療技術専門学校（以下、本校）では社会人入試や推薦入試、特別入試など多様な入試制度を実施し、広く優秀な人材を確保するための様々な対応をとってきた。本校は平成18年に短期大学へ移行するための準備をしている。しかし、養成期間は今までと同様な3年過程であり、志願者の属性も今までと大きく変わることは無いと思われる。

本研究では、今後の学生募集や入学後の学業指導における基礎的な資料にすることを目的として、過去の入学志願者の推移を把握し、その背景にある事柄について推察した。

対象と方法

対象はリハビリテーション学科における、昭和61（1986）年から平成14（2002）年までの受験生とし、入試関係の保存資料から受験生の最終学歴と卒業年度に受験した者（以下、現役）か、それ以外の者（以下、浪人）

かを確認した。なお、学歴は高等学校卒業（以下、高卒）及び大学等卒業（4年制大学、短期大学、専門学校卒業者を含む）（以下、大卒）に分類した。

なお、表1に示したように社会情勢の変化などに対応し試験方法を変更し、複数回の受験が可能ないようにしてきている。したがって、受験生には同一人物が多数存在するため、受験生数は延べ人数で得られた結果を分析対象とした。

結 果

各年度の入学志願者数は図1のとおりである。理学療法学科（以下、PT）および作業療法学科（以下、OT）は平成9年ごろまで緩やかな増加を示し、その後減少傾向にあった。言語聴覚学科（以下、ST）は昭和63年には59名であったが、その後平成3年には26名にまで減少した。さらに、平成7年に一旦減少するが平成12年には77名と最高になった。その後の2年間は減少した。

次に、受験生を学歴と現役・浪人別に示したのが図2である。学歴では年を経るにしたがって高卒者の比率が減少した。高卒者は平成11年以降、全受験生に占める割合は80%以下になった。大卒者は平成5年ごろから増加し始めた。高卒者、大卒者ともに現役よりも浪人の比率が増してきている。しかし、大卒の現役生は平成6年以降において平成7年と9年を除けば、10人以上が受験し

¹⁾ 福井医療技術専門学校 理学療法学科（福井市江上町55字鳥町13番1号）
（受付日 2005年6月13日）

入試種別 年度		1次入試	2次入試	社会人 入 試	指定校 推薦入試	推薦入試	特別入試	備 考
昭和59年	1984	○	○	/	/	/	/	PT, OT, ST20名定員
昭和60年	1985	○	○	/	/	/	/	
昭和61年	1986	○	○	/	/	/	/	
昭和62年	1987	○	○	/	/	/	/	
昭和63年	1988	○	○	/	/	/	/	
平成1年	1989	○	○	/	/	/	/	PT, OT25名定員
平成2年	1990	○	○	/	/	/	/	
平成3年	1991	○	○	/	/	/	/	
平成4年	1992	○	○	/	/	/	/	
平成5年	1993	○	○	○	/	/	/	
平成6年	1994	○	○	○	/	/	/	
平成7年	1995	○	○	○	/	/	/	
平成8年	1996	○	○	○	○	/	/	
平成9年	1997	○	○	○	○	/	/	
平成10年	1998	○	○	○	○	/	/	ST35名定員
平成11年	1999	○	○	○	○	○	/	
平成12年	2000	○	○	○	/	○	/	
平成13年	2001	○	○	○	/	○	/	
平成14年	2002	○	○	○	/	○	○	PT, OT, ST40名定員

表1. 各年度の入試方法

- *○印は実施したことを，斜線は実施しなかったことを示す。
- *受験資格は各試験とも高等学校卒業以上の者である。
- *社会人入試は就業経験が2年以上で入学時24歳以上となる者である。
- *指定校推薦，推薦入試は現役生のみが対象である。
- *特別入試は年齢，就業経験等の条件は無い。

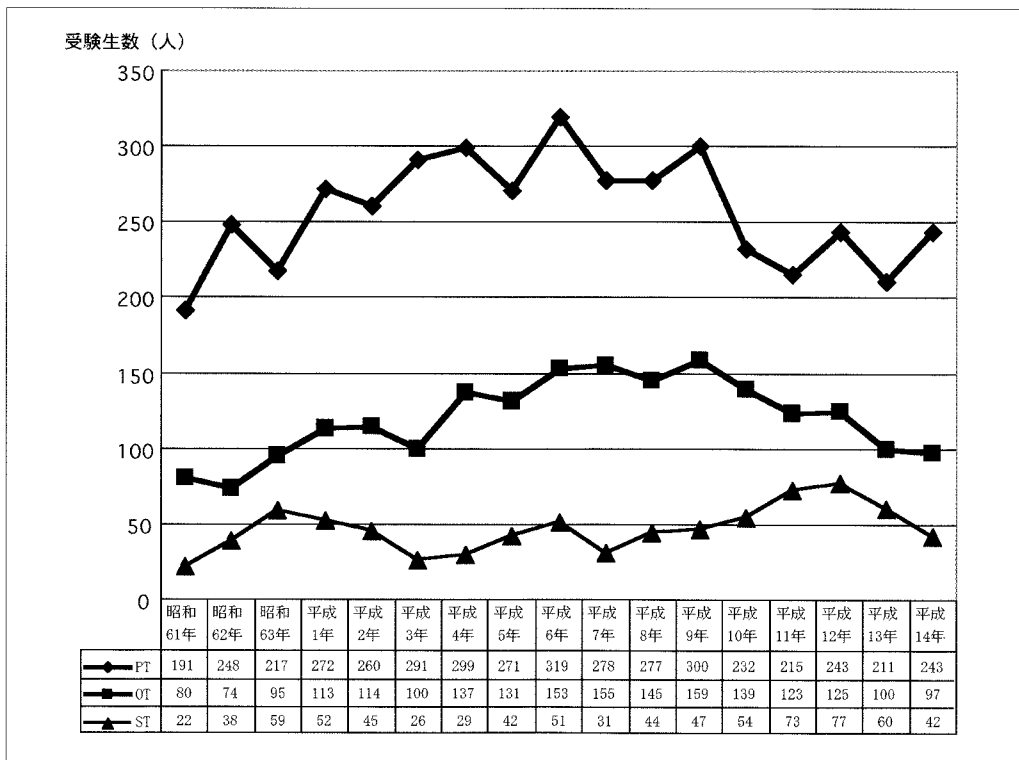


図1. 昭和61年から平成14年までのPT, OT, ST学科の受験生数

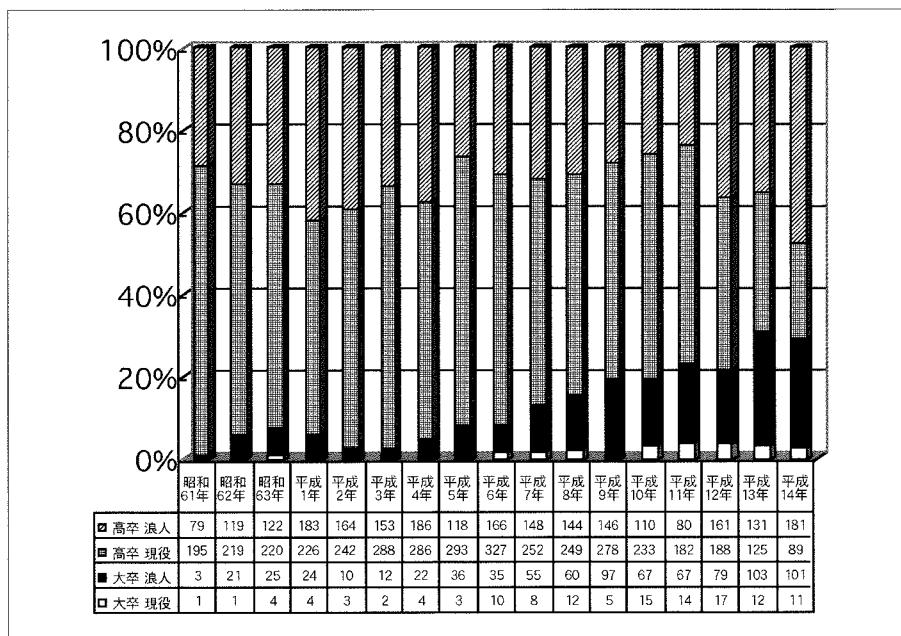


図2. 昭和61年から平成14年までの受験生の学歴と現浪別

棒グラフは各年の全受験生に対する比率で示している。
グラフ下の表は実数(人)を示している。

ていた。

考 察

受験生の動向に影響することとしては、高等学校を卒業する年齢である18歳人口が大きな要因である。旺文社の資料¹⁾によれば18歳人口は平成4年に204.9万人であり、そのうち121.5万人が大学等への進学を希望する者である。これらの生徒はこの年をピークに減少し続けている。このことは、本校の志願者数にも影響を及ぼしていると考えられる。なぜならば、平成4年以降、本校受験生における高卒者の現役の割合が減少していることからもうかがえる(図2)。しかし、その後も本校における受験生の総数は増加を続けていた。これは、平成5年から導入した社会人入試により高卒者が減少した分を十分に補充できていたといえる。

次に、受験生数に影響する要因としては類似の学校数が考えられる。特に、PT、OT、STの養成校は、近年異常とも言える勢いで増加している。STは法制化されてから期間が短いので十分な資料が無いが、PT、OTの養成校は図3に示すように急増している^{2, 3)}。これを見るとPT、OTの養成過程を持つ学校は、平成3年ごろから増加傾向になり、平成11年以降はさらに増加傾向が顕

著になっている。このことが本校において平成9年以降PT、OTの志願者数が減少したことにも影響を及ぼしていると考えられる。STについては平成10年に募集定員20名から35名に増員したことと平成9年12月に言語聴覚士法が施行されたことなどで平成12年までは受験生が増加したが、その後は減少している。STの養成校も近年大学の新設や学部、学科の増設が見られ、PT、OTと同様に本校への志願者減に影響していると考えられる。

本校における受験生の減少傾向は18歳人口の減少と学校数の増加により今後も続くと思われる。18歳人口の減少問題に関して言えば、平成18年には高卒者が116.4万人になり、そのうち大学等の受験生は77.5万人になると予想されている¹⁾。また、同じ資料によれば平成15年には、短大の入学定員に対して受験生数が下回る状況になっている。そして、この状況は現在までも続いており、平成18年においても変わりはないと予想されている。したがって、短期大学開設に当たってより優秀な学生を確保するための対策を考えることは非常に重要なことである。今回の調査では明らかになっていないが、近年の入学生は県内の高校出身者が非常に多くなっている印象がある。これら県内の高校生に対する広報活動は今後も継続する必要があるが、さらに県外にも広く広報することが今まで以上に必要になると思われる。また、大卒者の増

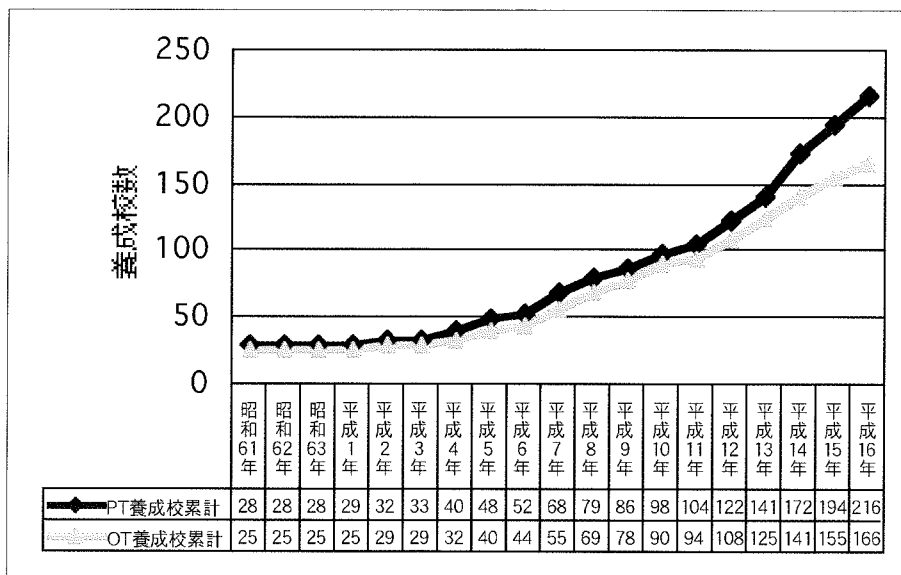


図3. 昭和61年から平成16年におけるPT, OT養成校の累計数

参考文献2および3のデータをもとに作成した。

加で受験生数の確保がある程度なされた時期があった。このことを踏まえると、社会人や現在大学等に在籍している学生に対しても広報していく必要があるだろう。特に、文部科学省の学校基本調査⁴⁾によれば、近年は4年制大学の卒業生における就職率は平成3年の81.3%をピークに減少傾向が続いており、平成16年度の卒業予定者においては55.8%となっている。これに連動するかのように入職も大学院への進学もしない学生が増加している。これらの一部には、本校のような専修学校の専門課程に進学する者を含むと思われる。今回の調査でも、近年は本校の受験生における大卒の現役生が若干増加している。大卒者のほとんどは社会人経験者であると思われる。社会人経験のある学生は他の学生に比較して学業成績は優秀であり⁵⁾、他の学生に良い影響を及ぼす。また、社会人経験が無い大卒者の学業成績も高卒者に比較して

学業成績は優秀である⁶⁾。したがって、優秀な人材を養成するためにも社会人経験の有無に関わらず大卒者などが受験しやすい試験制度を作っていくことも重要であろう。

文 献

- 1) 18歳人口・高卒者数&大学・短大受験生数の推移. <http://www.obunsha.co.jp/information/topic/t0308/t03083.pdf>, 旺文社.
- 2) 理学療法士養成校一覧. <http://www.soc.nii.ac.jp/jpta/GAKKOU.htm>, (社)日本理学療法士協会.
- 3) 全国作業療法士養成校一覧. <http://www.jaot.or.jp/youseiko.html>, (社)日本作業療法士協会.
- 4) 平成16年度学校基本調査, 文部科学省.
- 5) 髪元朋史: 社会人経験のある学生の学業成績. リハビリテーション教育研究, 2001; 6: 42-43.
- 6) 福谷保: 理学療法学科学生の経歴と学業成績の関係. リハビリテーション教育研究; 10: 28-29.